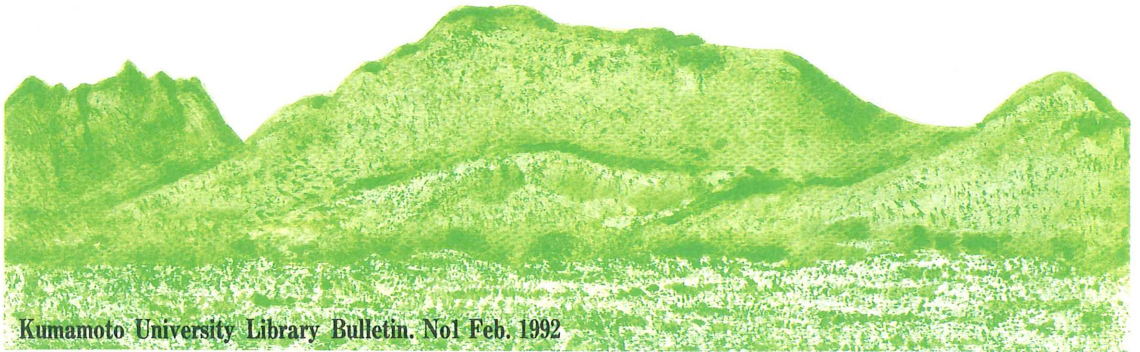


東光原

ISSN 0917-7604

熊本大学附属図書館報



Kumamoto University Library Bulletin, No.1 Feb. 1992

目次	附属図書館報創刊にあたって
	図書館の役割
	第8回特殊資料展を開催
	平成3年度目録システム講習会を開催
	ILLシステムの試験的利用（モニター）を実施
	電気通信に関する図書・文献の寄贈
	熊本大学研究者情報データベース更に充実
	落語風研修報告



第8回特殊資料展 出展資料『絵入太平記』より
正平7年3月八幡合戦事（太平記巻31）の場面

附属図書館報創刊にあたって

森野能昌



もりの よしまさ
熊本大学長，医博，
生化学

本学は昭和24年新しい大学制度により総合大学として発足しました。旧制五高，師範学校，工業専門学校，薬学専門学校，医科大学などが統合された結果です。総合大学としては，図書館がひとつのキャンパスの中央にあり，いかにも大学のシンボルとしての風格を備え，その大学の教育研究の水準にふさわしい内容を備えることが理想です。しかし，本学では，その創設の経緯もあって，現在の附属図書館本館は，主として教育図書館の役割を果たし，本荘地区，九品寺地区にある分館が，それぞれ，医学，薬学の研究図書館として機能を果たしております。あと，黒髪地区の文科系及び理工系学部群のための研究図書館機能の統合充実を図る方策が検討課題として残されております。

人間が進化に成功して優れた能力をもつに至った理由は，文字と言語の発明です。これにより，複雑な事象も共通の文字により表現することができ，一天才のアイデアもその論文を通して万人が享受することができるようになり，人間は目ざましい速度で文化，文明を次々と創造するに至りました。人類の知能や文化の所産を共有する過程で，図書の果たす役割は極めて大きいものがあり，学術の進展とともに図書館も姿をかえながら発展してきました。

現代は，各学問分野が互いに入り組み，発

展し，そこからまた新しい分野が生まれることにより，情報量も飛躍的に増大し，情報過多の時代となっております。現在までの膨大な学問業績から推し量って，例えば，これからの百年間に蓄積されるであろう学術情報量は想像できないほどに膨れ上がるでしょう。一方，情報科学技術の進展も急速であり，情報の貯蔵，検索などの技術が格段に進むことも予想されます。したがって，今後は，常に情報の保持，蓄積，提供，伝達の方法の改善の努力を重ねながら，将来に備えなければなりません。

蓄積された膨大な情報をいかに整理して有効に利用できるかは，利用者の一人ひとりが工夫してその方法を見つけるのが建前ですが，そういう利用者の立場をある程度想定して図書館関係者は，適切な助言指導できるように研究の努力を続けることが大事です。専門分野によって，情報の種類，保存形態，従って提供の仕方もそれぞれに異なっておりますので，教官も学生に対して，膨大な情報の中で何が本質的なものか，何を切り捨ててもよいかを判断する方法を理解させることも必要でしょう。

図書館は多機能をもたねばなりません。学生の勉強の場と資料をあたえ，学内，学外の研究者のための資料提供，参考書，研究資料などの保存，整理など一定のスペースの確保だけでなく，情報化時代を迎えて，図書館の機能も形態も大きく変わってきます。国内の他大学との間に情報利用のためのネットワークも整備されつつあり，さらに将来は国際的なネットワークという時代も近付いているようです。また，今後は開かれた大学としての期待から，図書館は，社会人のリカレント教育など一般人のための生涯学習の場としても重要となります。これらの機能拡充のために

は、実績を挙げ、これを説得力として、財源を求めなければなりません。

このように、図書館は、大学における教育研究に不可欠のメディアとして、常に利用者との対話を通して適確にニーズを把握し、種々創意工夫をこらして、利用しやすい機能を備

えることが求められております。今回、図書館報が発刊されることは、誠によろこばしく歓迎すべきことであり、これが利用者と図書館の間の対話と交流の場となることを切に願っております。

図書館の役割



くろばね よしあき
附属図書館長，工博，
建築構造学

昭和25年と言えば、やっとうどんが自由販売になった頃です。その頃まで主食は配給制で、米やうどんは“米穀通帳”を出さないと売って貰えないことになっていました。この年に私は大学に入学しました。

教養部の学生は旧制高校の校舎で授業を受けましたので、図書館も高校時代のものをそのまま利用していました。木造の小さい建物の二階が閲覧室で、窓から手のとどくほどの近さにある木の葉が太陽の光をチラチラと反射しながら揺れていた光景を、今も思い出します。この閲覧室は、学生の談話室のような働きをしていました。ここで、弁当を食べたり、他学部の学生と雑談をしたり、デートをする奴も居ました。

当時、開架方式をとる図書館はまれで、本は借り出して家で読むのが普通でした。私も、教養部図書館を利用して数多くの小説を読みました。昔の本には伏せ字がありました。若い人には想像できないでしょうが、モーパッサンの「女の一生」にさえ伏せ字がありました。母さんの散歩道のくだりは、勿論、×××

黒羽 啓明

であったと思います。止むなく「女の一生」の原本を借り出したところ、伏せ字に該当する部分だけが真っ黒に汚れておりました。昔の高校生はこうしてフランス語の勉強をしたんだな、と感心しました。

その後、歳を経るに従って身辺が忙しくなり、図書館から小説を借り出すことは皆無となりました。現在、もし図書館長という職に就いて居なければ、自ら図書館へ赴くことは年に数回しかなく、たとえ赴いたとしても、せかせかと駆けつけて極めて実利的な情報の断片を探すのがせいぜいであろうと、容易に想像することができます。図書館に行かなくても、研究室は情報の洪水です。この洪水に押し流されないで、うまく餌を取る魚が太るわけです。したがって図書館の第一の使命は情報の管理にあります。各種各様の魚に最も適切な餌を準備する仕事です。研究者や学生を魚にたとえて申し訳ありません。

昨年の5月に私が図書館長に選ばれて当惑していた時に、「情報管理は工学部の先生が一番得意な仕事じゃないですか」と私を励ましてくれた同僚が何人も居ました。しかし大学図書館にはもう一つの重要な使命があります。それは文化の保存と提供です。文明とは金になるもの、文化とは金に無関係なものと、私なりに定義します。その文化とはほど遠い日常・研究生活を送ってきた私にこの様な使命が担えるのかと言う疑問が未だ晴れないでいます。私が教養課程に在学していた時には生活は誠に貧しかったけれども、豊かな思い出

が残りました。もちろん年齢のせいもあるでしょうが、文化と深くお付き合いできたのは、後にも先にも教養課程の2年間だけであったからではないかと思えます。文化を教えることが何の役に立つのかについては、考えなくてよいと思えます。文化は「役」とは無関係なものですから。しかし創造力のある人材を育てるためには夢を持たせないといけない、その夢を育てるのは文化である、と信じております。

旧制高校の気風が漂っていた新制大学の発足当時から40年も経った今、大学の教育体制はかなり形骸化してきました。一方、受験競争をくぐり抜けた学生は、やがて専門教育科

目を詰め込まれ、企業戦士として競争社会へ忙しく巣立って行きます。社会の価値観が物質文明にますます重心を移す中で、大学設置基準に新たに定められた「自己評価」では捉え難い文化を、如何に守るかに大学は苦勞することになります。このような大学にあって、図書館は文化のオアシスとしての役割を果たす必要があるでしょう。もちろん水を飲みたい馬にはなす術がありませんが、飲みたい馬もたくさん居ます。このような馬に、文化の水をたっぷり飲ませてやらなければ、野蛮な馬ばかりが育ってしまうのではないかとひそかに恐れています。学生諸君を馬にたとえてご免なさい。

第8回特殊資料展を開催

平成3年11月13日（水）から15日（金）まで、『太平記の世界』と題する特殊資料展を自由閲覧室において開催し、15日午後には文学部工藤敬一教授の『中世の合戦と古文書』と題する公開講演会を2階会議室で行いました。

出品資料は総点数53点で、永青文庫寄託資料から「足利直義警護催促状写」、「足利義詮軍勢催促状」、「足利義詮感状」、「足利義詮守護職補任状」、「細川常久（頼之）書状」、「細川頼有讓状」など足利一族として活躍した細川氏の古文書や、「永源記」などの古記録、奈良絵といわれる色あざやかな挿絵入りの「絵

入太平記」（表紙に一部を掲載）、「風雅和歌集」、「新千載和歌集」、「神皇正統記」や「梅松論」などの写本、刊本類を出展し、阿蘇家文書から、「後醍醐天皇論旨」をはじめ、「足利將軍（尊氏・義詮・義満）御判御教書」、「足利直義御教書」、「高師直書状」、「恵良惟澄軍忠状」などを出展しました。

宮方・武家方・佐殿方三派の文書を一堂に会した展観で、NHK大河ドラマ『太平記』の人気と相俟って、入場者数272名、公開講演会参加者数67名と盛況でした。



平成3年度目録システム講習会（中九州地域講習会）を開催

平成3年10月21日から25日までの5日間、学術情報センターとの共催による目録システム講習会を開催しました。

学術情報センターを中心としたオンラインネットワークによる目録システムの理解と、全国レベルでの目録の標準化を図ることを目的としたもので、中九州地区においては今回が初めての開催になります。

受講者は九州東海大学、熊本商科大学、大分大学、大分医科大学、長崎大学そして熊本大学の6校、10名で、講義には学術情報センターから2名、熊大図書館から3名があたりました。

また、実習に際しては、できるだけ講習会の効果を高めるため、補助講師を設定して、マンツーマン体制による実習のサポートを行いました。

お互いの立場の違いはありましたが、共に日常業務とは別の視点から目録システムを見ることができたので、受講者ばかりでなく、講師陣も大いに勉強になりました。

そして、初めての講習会開催にもかかわらず予定通り円滑に実施できたのは、九州大学と鹿児島大学のアドバイスによるところが大きく、今さらながら大学図書館間のネットワークのありがたさを感じました。

ところで、現在の大学図書館界は、国公立を問わず主要な図書館のほとんどが、学術情報センターのデータベースに登録しながら、目録作成を行っています。

平成3年12月現在で、すでに600万件もの図



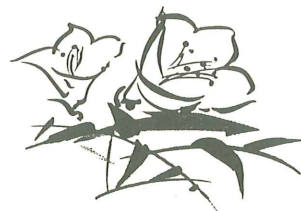
書資料が登録されており、学術雑誌も大多数が入力されています。

その結果、自大学所蔵の資料のみならず、全国の他の大学所蔵の資料も網羅的に検索することができるようになり、利用者に対しても極めて効果的なサービスができるようになりました。

また、目録本来の機能は当然のことながら、データの色々な利用が可能となり、業務側から見ても、このデータベースの利用効果は多大なものとなっています。

したがって、今後とも目録データの品質を維持し、利用効果をより高めて行くために、この講習会の占める意義は大きいものと思われます。

(情報管理課目録係)



ILLシステムの試験的利用（モニター）を実施

ILLとはInter - Library Loanの略で、図書館間相互協力業務（具体的には文献複写、現物貸借における他館への依頼、他館からの受付業務等）のことです。

ILLシステムとは、これら相互協力業務に関する通信・連絡業務を電子的（オンラインネットワーク）に行うことにより、業務の省力化と文献入手に要する日数の短縮化を図ることを目的としたコンピュータシステムで、学術情報センターにおいて開発が進められてきたものです。

この度、この開発の進展に伴い、平成3年

11月11日～22日の間、本学附属図書館を始め、国公立66大学83館の参加を得て、本番に準じた総合テストが実施されました。

短期間ではありましたが、結果は良好で、一連の処理の整合性や依頼から入手までの処理時間の短縮が確認されました。

この結果を踏まえ、平成4年4月から国公立の大多数の大学図書館間で本番実施の予定ですが、本学における教育・研究に少なからず貢献できるものと期待されます。

（情報サービス課参考係）

電気通信に関する図書・文献の寄贈

財団法人電気通信普及財団から、図書・文献の購入資金として年額50万円を今年度以降5年間寄付されることになりました。

これは、同財団が、次の世代を担う学生に電気通信の技術面ばかりでなく、社会科学面での理解も深めさせる必要があると考え、大学附属図書館における社会科学分野を含む電気通信関係図書・文献の拡充を図るための一助として行なわれているものです。

現在、当館ではこの決定に従い各学部から選出された教員で構成する選書委員会に購入図書・文献の選定作業を依頼し、購入手続きを進めているところです。

整理後の図書・文献は、一般図書と同様に学生用図書として開架し、閲覧・貸出の対象とする予定です。

同財団の贈呈趣旨にこたえるうえでも大いに利用されるようお願いします。

（情報管理課受入係）

熊本大学研究者情報データベース更に充実

熊本大学研究者情報データベース（愛称 KURES : Kumamoto University Researcher Information Search System）は、松角前学長、安河内元図書館長、上野前情報処理センター長等のご尽力により、1989年5月に初期構築を終え、早速サービスを開始したものです。

KURESは、学内研究者の研究の促進及び研究領域の拡充を目的としたもので、現在までに約550件の研究者情報がデータベース化されています。

学内の研究者は、それぞれの研究室のパソコン端末から他の各研究者の研究テーマ、使用資料・機材、共同研究関連事項等を即座に検索することができます。

毎年、更新作業を行っていますが、平成3年度も大幅な改定を行い、一層充実した内容となりました。

今後の研究の発展、更には異なる専門分野間の共同研究の促進に寄与することを願っています。

（情報サービス課参考係）

落語風研修報告

堀内 眞也

はち：ご隠居，東京土産買ってきましたよ。

隠居：おや，ありがとうよ。美味そうなお菓子だね。最近，姿を見かけないと思ってたが，東京に行ってたのかい。

はち：へい，平成3年度7月15日から8月2日まで，つくば市の図書館情報大学で「平成3年度大学図書館職員長期研修会」ってのがありましてね。北は北海道大学から南は鹿屋体育大学まで42名が参加したんですよ。

隠居：なかなか難しそうな研修だね。

はち：それがとても楽しい研修でしたよ。私たちの宿は，図書館情報大学の学生が夏期休暇で帰省して空いている部屋を借りたんですよ。私の部屋は，テレビなし，クーラーなし，カーテンなし，あるのはベッドと机と椅子とつくばの暑さだけ。ただし，2週目の6日間は，東京の竹橋会館に泊まって，あちこちの図書館を見学しましたがね。

隠居：それじゃ，ちっとも楽しいことないじゃないか。

はち：いや，いや，昼の講義も夜の講義も，おもしろかったですよ。毎晩毎晩，班長さんの部屋に研修仲間が集まりまして，ワイワイガヤガヤ酒盛りですよ。昼間の講義の復習だったか，反省会だったか忘れましたがね，そりゃ賑やかなもんでしたよ。つくばの水はまずかったけど，酒は美味かったですねえ。“つくばの友”も沢山できましたよ。

隠居：研修が楽しかったのは分ったよ。それで肝心の研修の内容はどうだった。

はち：図書館に関する幅広い分野でしてね，全部話したら日が暮れてしまうんで，私がビックリしたり，感心したりした

事について感想を交えて話しましょうかね。

隠居：ああ，そうしておくね。

はち：学術情報センターが提供する種々のサービスの話が，講義のあちこちに出てましたね。特に，平成4年4月からサービス開始予定のILLシステムの話が興味深かったですね。

このILLシステムが，全国ネットで定着したら，各大学図書館は「学術情報資源の共有」をもっと認識するようになるでしょうね。ともあれ，ゲートウェイサービスとか，ドキュメント・デリバリーサービスとか，新しいサービスのあり方も，これからの大学図書館は考えていかななくてはならないようです。

それから，ここ2，3年で急速に大学図書館に普及したCD-ROMも東京工業大学では，CDサーバーを導入して，利用者サービスの向上を図ってましたし，光ファイリングシステムを導入して，全文データベース化を試行してましたね。全文DBといえば国文学研究資料館でも，原本のDB化が進んでいて，「徒然草」や「伊勢物語」などの全異本が標準化され，光ディスクに電子ファイルとして蓄積されているんですよ。

隠居：図書館も随分変わったもんだねえ。お前さんも少しは物知りになって帰って来たみたいだから，酒ばかり飲んでないで，学生さんや研究者の方々のために頑張って仕事をしておくれよ。

はち：はいはい。

(医学部分館運用係長)

日誌 (平成3. 9. 1~12. 28)

- 9. 3 附属図書館係長会議
- 9. 13 資料保存に関する調査研究班 WG
会議 (於九州大学)
- 9. 24 附属図書館委員会
- 9. 26 電気通信普及財団助成・援助金贈
呈式 (於東京都)
- 9. 26 九州地区国立大学附属図書館協議
会実務者連絡会議 (於鹿屋市)
~27
- 10. 1 附属図書館係長会議
- 10. 14 図書館報編集委員会
- 10. 21 平成3年度地域目録システム講習会
~25 (中九州地域講習会)
- 10. 23 第23回日本薬学図書館協議会九州
地区会議 (於福岡市)
- 10. 24 平成3年度日本薬学図書館協議会
~26 研究集会 (於福岡市)
- 11. 5 附属図書館係長会議
- 11. 8 資料保存に関する調査研究班 WG
会議 (於本学)
- 11. 11 平成3年度第2回総合目録データ
~ ベース実務研修 (於学術情報セン
12. 7 ター)
- 11. 11 ILL システムモニター開始
~22
- 11. 13 第8回特殊資料展「太平記の世界」
~15
- 11. 15 公開講演会「中世の合戦と古文書」
文学部 工藤敬一教授
- 11. 18 選書委員会 (電気通信普及財団助
成関係)
- 11. 20 図書館報編集委員会
- 11. 25 第5回国立大学図書館協議会シン
~26 ポジウム (於神戸市)
- 11. 28 平成3年度国立大学附属図書館事
~29 務部長会議 (於筑波大学)
- 12. 3 附属図書館係長会議

人事異動

- 平成3.9.1 情報管理課受入係 木下聖一
附属病院医事課外来係へ配置換
- 同 情報管理課目録係 高木貞治
情報管理課受入係へ配置換
- 同 附属病院医事課入院係 林田善美
情報管理課目録係へ配置換

あとがき

今、大学では教育改善のための諸施策が加速度的勢いで推し進められています。図書館も日常の図書館活動や内外の斬新な図書館事情を積極的に学内に広報するため図書館報を創刊することといたしました。学内各層の方々に図書館への理解を更に深めていただくこととなれば幸いです。

創刊に際し、森野学長には特別に御寄稿をいただきました。また教育学部森山秀吉教授に標題の揮毫を、工学部北野隆教授には標題を飾るにふさわしい雄大な阿蘇の山並みを題材とした口絵をいただきました。各先生に厚くお礼を申し上げます。

今後は年3回の頻度で発行を重ねる予定ですが、誌面を充実させるためにも学内関係者からの御寄稿や編集に関する御意見を期待しております。

*誌名：現在の中央館の敷地一帯は、旧制第五高等学校時代東光原と称する運動場であったことに由来する。

東光原—熊本大学附属図書館報—創刊号

平成4年2月

編集発行 熊本大学附属図書館

〒860 熊本市黒髪2丁目40番1号 ☎096(344)2111